

生ごみ持参 堆肥に

試験運用

家庭菜園で再利用

むつ市と六ヶ所村

家庭の生ごみを集めてリサイクルし、堆肥として地域で再利用する取り組みが今月、むつ市と六ヶ所村で試験的に始まった。同市で燃えるごみの約4割を占める生ごみを再利用することで、ごみ全体の削減につなげることが狙い。県環境政策課によると、県内で自治体が生ごみのリサイクル事業を手がけるのは珍しいといい、関係者は「他の自治体に取り組みを広げるきっかけにしたい」と期待を寄せていく。

むつ市では、約2500世帯が暮らす品ノ木地区で試験事業として開始した。市が同地区のリサイクル業者の敷地内に業務用の生ごみ処理機を設置し、住民が家庭で出た生ごみを持ち込む。

処理機は1日最大55kg分(約100世帯相当)の生ごみの処理が可能で、年間で最大約14tの生ごみを堆積する。

200万円をかけた。六ヶ所村尾駅地区にある

同地区では13日から運用を始めており、24日時点では33世帯が参加している。市は国の補助金を利用し、処理機のリース料やリサイクル業者への委託費などを計約

200万円をかけた。

つた。

むつ市の16年度の燃えるごみの排出量は約2万t。約4割を占める生ごみをいかに減らすかが課題となっていた。

むつ市、六ヶ所村とともに、取り組みに参加する住民を増やし、事業を全域に広げたい考えだ。宮下宗一郎市長は22日に行った運用開始のセレモニーで「生ごみを肥料として地域で循環させ取り組みを広げ、環境に優しいまちを広く発信してほしい」と期待を示した。



設置された生ごみの処理機(22日、むつ市)

日本原燃の社宅でも8日から、同様に家庭の生ごみを肥料として活用する取り組みが行われている。居住する全74世帯が参加している。運営する1日30kgまでの処理が可能で、今年度の事業費は約200万円。堆肥は地元の学校や団体などが活用できるようになると」という。

県によると、2016年度の県の1人1日当たりのごみの排出量は、1004kgで、全国47都道府県中

ワースト6位。県内市町村では、むつ市が111.8kg

でワースト4位。六ヶ所村は125.3kgで同2位だ

った。

むつ市の16年度の燃えるごみの排出量は約2万t。約4割を占める生ごみをいかに減らすかが課題となっていた。

むつ市、六ヶ所村とともに、取り組みに参加する住民を増やし、事業を全域に広げたい考えだ。宮下宗一郎市長は22日に行った運用開始のセレモニーで「生ごみを肥料として地域で循環させ取り組みを広げ、環境に優しいまちを広く発信してほしい」と期待を示した。